

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	平成29年12月 8日	評価結果市町村受理日	平成30年 5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&jigyosyoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様一人一人の思いに寄り添う暮らし、また地域の一人としての暮らしを大切にしています。食べたいものがあればその日に一緒に買いに行き、料理する。行きたいところがあれば計画し行動する。等スタッフ皆が寄り添い住人様主体の生活を心掛けています。また地域の一人として、敬老会、幼稚園焼き芋会、等積極的に参加し、地域運営推進会議にて報告や意見を頂いてます。そして住人様一人一人がホームが自宅と思えるような寄り添った支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット間には障壁がなく、職員同士の良好な関係が構築されており、利用者一人ひとりが個性豊かな生活を送っている。グループホームの利用方法や介護保険制度に疎い家族には、粘り強く丁寧に説明している。わがままにも冷静に対処し、納得させる努力をしている。

利用者が気持ちよく過ごせるよう、職員全員が同じ気持ちを持って支援に携わっている。家族も訪問しやすく、毎日必ず訪問する家族もいる。利用者本位が徹底され、利用者のしたい事・食べたいもの・行きたいことの夢を叶えるホームを目指している。特に外出支援を重視し、相撲観戦・馬券購入・パチンコ遊戯等の個別支援にも力を入れている。運営推進会議には、毎回自治会長夫婦の参加があり、家族会には孫等の参加もある。ホームと家族と地域とが、ともに利用者を支えている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	菊井中学校の運動会観覧。幅下学区のお祭りや敬老会に参加。地域の児童福祉施設との交流。以前からお付き合いのある第三幼稚園の焼き芋会への参加。	「人生楽しく自分らしく」を法人理念に掲げ、職員の個別目標に展開して支援している。法人が実施する職員アンケートやユニット会議で個人目標の進捗を評価し、目標の達成を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物で地域のお店の利用をしている。ほぼ毎日行くので顔なじみとなり、買い物中に何かあれば助けて頂いている。町内会長の奥様にはイベントの時には率先してご協力頂いている。	自治会や近隣の学校等との交流を図り、敬老会やお祭り等に参加し、地域との良好な関係を構築している。体操や歌のボランティアを定期的に受け入れ、利用者の楽しみの一つとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は、養成講座の開催できる有資格者が不在の為、開催を中止とした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様には、ほぼ毎回ご参加頂き、率直なご意見を頂いている。以前からご尽力頂いていた、災害時支援協定を12／4に締結する事になる。	地域包括支援センター職員や家族、同法人の管理者等が出席している。区の担当者に会議参加を求めているが応えてもらえない。自治会長がホームへの理解を示し、地域代表として毎回夫婦で参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度より、家族会と運営推進会議を同時に開催する事になり、いきいき支援センター様にも参加して頂き、報告とご意見を頂く。	生活保護受給者を多数受け入れている為、区からの訪問がある。地域包括支援センターとも連携を図っており、認知症カフェを開く依頼がある。開催に向けて、現在検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、ご利用者様の外に出たいという願いを極力阻害しないようにしているが、人員の関係でスピーチロックをしてしまう場合もある。しかし、外出出来る様に改善に努めています。	昼間は施錠せず、外出しやすい環境を作っている。居室にはセンサーを付けているが、利用者にとって自由を奪わない支援を心がけている。どうしても出てしまうスピーチロックについては、研修等を通して理解を深めていこうと話合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いも含めて、目に見えない虐待は無いのか、管理者との面談の際に、振り返りと考える機会をもっている。あざ・傷については、すぐに報告を挙げ、管理者が把握出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している利用者様がいる。月に一度来訪されるため、その都度、近況報告をしている。しかしながら、全職員が権利擁護の理解が出来ているわけではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の担当・管理者・ケアマネが中心となり説明を行っている。問題等あれば、その都度解決している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的に利用者様やご家族からアンケートを取り、職員に公表し、必要があれば会議等で、話し合っている	家族の訪問時に職員から話しかけ、コミュニケーションを取って意見を聞き取っている。家族からの要望も多く、可能なものはその都度対応している。遠方の家族へも、電話を使って積極的に連絡を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で職員が発言出来る機会を設けている。また、日々の申し送り等でも、意見・情報交換出来る様にしている。管理者面談でも意見や提案を聞く機会を設けている。	ユニットリーダーを配置して職員の意見を集約しているが、管理者も職員と常に接しており、意見を聞き取りやすい環境にある。管理者は、ホーム運営にはコミュニケーションを図ることが重要だと考えて実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の面談、自己評価表、アンケート等を通して、個々の職員の目標や達成度を把握するように努めている。評価は、能力給やボーナスでしている。法人には福利厚生部門がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられている。外部研修も周知されており、希望者が参加できるようシフト調整を行っている。初任者研修等の資格取得の費用の助成も行われている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コンソーシアムが毎月行われており、日程が周知されている。他法人の職員との交流も計画している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安な心理状況を理解し、帰りたい等の気持ちを否定せず、傾聴することで、少しずつ信頼関係を築づける様に、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時には、積極的にお声がけをし、日々の様子を話したりし、些細な事でも、話して頂ける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報や、ご本人のお話やご様子から支援の方向を見極めています。ご本人から直接お聞きするのが一番と考え、ゆっくりと環境に慣れて頂き、お気持ちをお聞きするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の「出来る事・したい事」を、少しでも実現出来る様に支援しながら、一緒に楽しみ、張りのある生活になるように工夫しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由に、ご家族様が来館頂ける環境を整えています。ご家族様からのご意見をお聞きする事で、気付かされることもあります。ご家族様も、お手伝いをして下さる方もいらっしゃいます		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が気軽に来訪して頂ける環境を整えています。年賀状の宛名書きを、お手伝いし、これまでの関係を継続出来る様に支援しています	毎日訪問する家族もあり、家族同士でも交流がある。職員がバタバタしている時には家族が手伝ってくれることもあり、家族や友人が訪問しやすい環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席はある程度決まっているものの、固定せず、いろんな方との交流が図れるようにしています。上下ユニットの垣根も作らず、自由に交流が出来るよう行事等を合同で行ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の方がいない為、現在は取り組みがないが、前例があるので、それに倣い対応出来る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝はゆっくり寝ていたい・今日は部屋で御飯が食べたい・お風呂を夜入りたい。等の希望があれば、体調や安全確保出来る等状況を整え、対応し日々を過ごしていただけるようにしています	会話だけではなく、目つきや表情等を観察することで「何を求めているのか？」を、利用者の立場に立って考えることを基本としている。職員は意向を沢山汲み取り、支援に活かせる様に努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご本人からのお話、ご家族様からのお話から入居以前の情報を得る様にしています。また日々の生活での会話等で、以前のご様子を伺った時は記録に記載するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化する事を念頭に置いて、日々のご様子をスタッフ間で申し送り共有しています。心身の状況に合わせて臨機応変に対応出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でカンファレンスを行い、支援の方向をチームで考え決定しています。その際には、ご本人のみならず、支援に関わるご家族様・医療等専門職の情報や意見を取り入れています。	月1回のモニタリングを通し、利用者の意向が盛り込まれた介護計画を作成している。申し送りやSNSを利用し、職員間の情報共有を図っている。介護計画を家族に説明しているが、説明不足の部分が見られる。	計画作成担当者は、今まで以上に家族への説明と話し合う時間を持ち、利用者、家族ともに理解や協力の得られる支援が行えることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌をご本人の様子・スタッフの支援や気づきの項目に分け、状況と情報を共有出来る様にしています。共有されたものは、カンファレンスやケアプランに反映させています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「～したい」を叶えられる様な行事計画や、日々の生活の中でのご利用者様のニーズにスタッフがアンテナを張り、可能な限りお応えできるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容室、馴染みの近所のスーパーに買い物に行く等、地域資源を生活の一部として活用しています。地域資源の活用には課題が残るものの、活発な活用をするようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診時に、ご本人のご様子を医師・薬剤師・看護師に伝え、心配事等の相談に乗ってもらい、ご納得のいく医療を受けられる様に、支援しています。	協力医の往診が月2回あり、訪問看護や薬剤師による協力体制を構築している。特に看護師は職員のみならず家族や利用者からの信頼が厚く、日頃の悩み相談にも応えている。他の医療機関への受診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の訪問看護が入り、ご利用者様の健康状態を把握しているので、管理者・スタッフはご利用者様の近況の報告、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の基本情報を速やかに病院へ提示出来る様にファイルを準備している。入院中は定期的に病院へ出向き、ご本人の様子を担当医師、看護師から何うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度、可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療・介護連携をし、ご本人らしく終末期を迎えて頂けるように取り組んでいます。	看取りの経験も多く、協力医や看護師との連携が取れている。家族と利用者の意見を重視し、良い最期を迎えることができるよう取り組んでいる。看取りを終えた後は、利用者も一緒に見送りをしたり、葬儀に参加したりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成。常時見えるところに掲示。ユニット会議などでも演習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はもとより、非常食・常備水の配置、町内会長を通じての最新情報の収集や地域との連携協定を12/4に締結を行った。	地域と、非常時の支援協定を今年度結んだ。水害・地震・火災等に備えた避難訓練を定期的に行っている。地域の防災訓練にも参加し、炊き出しや紙皿にラップを敷いて食事を摂る実体験を行った。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する事等は、言葉がけに配慮し、失禁の際にもご本人の尊厳を傷つけないよう配慮している。入浴・更衣・塗薬の身体支援時の際には、プライバシーに配慮している。	利用者個々のペースに合わせ、個人を尊重して無理強いしない事を基本に、自宅に居る時と変わらない様に過ごす支援を行っている。職員は言葉遣いにも気を配り、ホーム内での良好な人間関係を構築している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・起床時等の更衣時には7、ご本人とお話をしながら決めたり、食事やおやつの中には、メニューや飲み物の選択や意見が言える様に、働きかけやお声がけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間・入浴の順番等、大まかな流れはあるものの、基本的にはご利用者様のペースや希望に合わせ支援を行っています。希望があった場合は、尊重するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	法人がシニアファッションショーを開催したこともあり、オシャレをする事に対しての参加者の方をはじめとして、他ご利用者様方も話に花が咲き、楽しい時間となりました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁で食材を切る・フライパンで炒め物をする・食器の洗い・拭き上げをする。といった食事の準備・片付けを一緒に行っています。	利用者の意向に合わせてメニューを変更したり、利用者が自分たちで出来ることを実践している。利用者個々の嗜好を把握し、形態を変える等の工夫を行い、食べる事への意欲を失わない様に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量・水分量を記録している。特に脱水状態に陥りやすいご利用者様については、細かく記録をつけている。栄養摂取の面で不安がある状況があれば、往診にて、相談を適宜に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要なご利用者様については付き添い、適宜支援行っている。また、何かしらの不安や痛み等あれば、歯科往診時や相談・連絡をして対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	褥瘡や皮膚トラブルが発生しやすいご利用者様については、特に便意・尿意の意思表示が無くても排泄支援のお声がけをしています。なるべく、トイレで排泄をしてもらえるように記録を見直し排泄パターンを把握するようにしています。	言葉掛けやタイミング等を工夫し、利用者本人が納得してトイレに行けるように誘導している。排泄自立してもらえる様に、職員は試行錯誤を繰り返している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取量の把握をし、スムーズな排便リズムに向けての日々の生活での腹部マッサージ等の便秘解消の取り組みをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は体調や気持ちの状態に応じて、臨機応変に対応しています。時間の希望にも対応する様にしています。	リフト浴もできる設備が整っている。入浴剤等も使用し、一番風呂が良い利用者や拒否する利用者には、入浴時間の希望に応える等、要望を可能な限り叶える様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、ご本人が基本的には決めています。就寝中は音や光に配慮し、安心して休息できる環境作りに努めています。殆どの方が眠剤に頼らずに就寝されます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有しています。服薬の際の事故を防ぐ為に専用ボードや服薬管理表を用いています。定期処方薬の変更や頓服の服用時などは少しでも変更があれば、記録や申し送りをするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「手伝おうか？」と声を掛けて下さるご利用者様には、お手伝いをお願いしています。餃子を皆で作って食べました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「宝くじ買いに行かないかなあ」と言われたご利用者様の願いを叶える為に、外出を計画してお出かけしました	日常的に散歩や買い物に出かけ、利用者によっては馬券を購入に出かけたり、パチンコに行ったりしている。個別支援に力を入れ、意欲向上の為に率先して外出支援をする事を重視している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物の際に個人の所持金から好きなものを買っていただいています。お菓子や果物を自分のお金で購入し、他ご利用者様に楽しそうに分けてみえます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい。手紙を出したい。と、ご希望があった場合には、事務所で、ゆっくりと電話をして頂いたり、宛名書き等のサポートをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはベランダに接しており、希望があれば日光浴をしたり、季節を感じてもらっています。	建物は、利用者にとっては暮らしやすい、職員にとっては見守りのしやすい造りになっている。中心に利用者が集まる居間があり、利用者同士の会話が自然と弾んでいた。華やかな装飾は避け、落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで、くつろいだり、お話をしたい方の側へ行ったり談笑したり、ユニットを訪問したりと、思い思いに過ごせるよう空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を入居時に持ち込んで頂いています。思い思いの生活空間が出来る様に、努めています。	居室のみならず、建物全体が清潔に保たれている。個性あふれる居室であり、家族の写真が貼られ、使い慣れたタンスやテレビを持ち込んでいる部屋が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からなくなったりしないように、プライバシー等に配慮しながら、戸を少し開けておく等の工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	平成29年12月 8日	評価結果市町村受理日	平成30年 5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様一人一人の思いに寄り添う暮らし、また地域の一員としての暮らしを大切にしています。食べたいものがあればその日に一緒に買いに行き、料理する。行きたいところがあれば計画し行動する。等スタッフ皆が寄り添い住人様主体の生活を心掛けています。また地域の一員として、敬老会、幼稚園焼き芋会、等積極的に参加し、地域運営推進会議にて報告や意見を頂いてます。そして住人様一人一人がホームが自宅と思えるような寄り添った支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	学区内の行事参加や児童福祉施設との交流、また地元中学生への福祉施設受け入れ等、積極的に行うことで、住人様がこの地にて楽しく・その人らしく住めるように努力します。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段よく行く馴染みの店での買い物では、挨拶を交わし、声を掛けて頂き、地域とも馴染んできています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は養成講座を開催できる有資格者が不在のため、開催中止しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回開催。町内会長様、民生委員、いきいき支援センターの方等が参加し、ホームの在り方等について色々な意見を頂きました。災害時の協力を頂いた件に関しては、協定を結ぶこととなりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年度より家族会と運営推進会議も同時に開催し、いきいき支援センターの職員の方にも参加して頂き、報告とご意見を頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関を施錠せず、出来る限り住人様の帰宅・外出したい気持ちを尊重します。しかし、無意識のうちにスピーチロックを行ってしまう場合もあり、人員の関係で外出しようとする利用者様について行けないこともあります。極力買い物等へお連れし、外出できるように努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いも含めて虐待になっていないだろうか、面談等で振り返る機会にしています。あざ、傷については直ぐに報告を挙げ、把握できるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している住人さんがいます。月に1回、住人さんの様子を伝えていますが、全職員が権利擁護の意味を把握しているわけではない可能性があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の担当者、管理者、ケアマネージャが中心となって説明しています。問題が何かあれば説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご意見を承るようにしていますが、定期的に住人さんやご家族の方からアンケートをとり、職員に伝えています。必要があれば会議で話し合っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や管理者面談においても、意見や提案を聞く機会を設けています。また、日々の申し送りまでも意見・情報交換を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の面談・自己評価表・アンケート等を通して、個々の職員の目標や達成度を把握するように努めています。頑張った職員には能力給・賞与で評価しています。法人には福利厚生部門があり、リゾート施設の利用ができます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられています。外部研修も周知されており、希望者が参加できるようにシフト調整を行っています。初任者研修・実務者研修等の資格取得の費用の助成も行われています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、コンソーシアムが行われ、日程が周知されています。他事業者の職員との交流も検討しています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したばかりの頃の不安な心理状況を理解し、ありのままの気持ちを否定せず傾聴する事で、段々と信頼関係を築いていけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さまの来訪の際には積極的に対応し、どんな些細なことでも話して頂ける機会を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報、本人の話や様子等から支援の方向を探っています。やはり、本人から直接伺うのを第1と考え、ゆっくりと環境に馴れて頂き、気持ちを察するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住人さんが得意とすることを中心に、普段の家事等を一緒に行っています。日々の生活の中で利用者個々の出来る事、したい事をできるように支援しながら、生活に活気づけて行けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様から支援について気付かれたご指摘には謙虚に耳を傾けています。また、ご家族様が食事支援を手伝って下さることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の方が気軽にお尋ね頂ける環境を整えています。年賀状の宛名書きを手伝い、これまでの関係継続を支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席は一応決まっているものの、固定せずに色々な方との交流が持てるようにしています。また、上下ユニット間の壁を作らず、自由に交流できるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者がいないため、現在は取り組みがありませんが、前例があり、前例に倣って対応します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝はゆっくりと眠りたいという住人さんのご意向を尊重したり、入浴も可能な時には夜間に入っていることもあります。体調管理に留意しながらも、ご本人のライフスタイルでお過ごし頂いております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご本人様・ご家族様のお話から、入居前までのご様子を知るようにしています。TVの話題や歌、何気ない会話から以前の様子を伺った時はケア日誌に記録し、支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調・心身状態は変化するものであることに留意し、その日のご様子をスタッフ間で申し送り、どのように支援するかを模索しています。心身状態に応じて支援を柔軟に変化させています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でケアカンファレンスを行い、ケアの方向性をチームで検討し、決定しています。その際、ご本人様・ご家族様の意向を考慮しています。また、医療・リハビリの意見も取り入れるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌をご本人様の様子や職員の気づきに別け、職員の気づきや工夫を情報共有できるようにしています。その情報をケアカンファレンスやケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「～したい」を叶えられるような行動計画や日々の生活の中での利用者様のニーズに職員がアンテナを張り、可能な限りお応えできるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではまだまだ移転後の地域資源の把握には課題が残りますが、行きつけの理髪店、馴染みの近所のスーパーへの買い物に行く等、地域資源を生活の一部として活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時にご本人様の様子を医師・薬剤師・看護師にお伝えし、ご本人からの心配事等の相談にもって頂き、ご納得のいく医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専属の看護師が入り、一人一人の住人さんの健康状態を把握しているので、管理者・職員は住人さんの近況について報告・相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の基本情報を速やかに病院へ提示できるようにファイルを準備している。入院中は定期的に病院へ出向き、ご本人様の様子を担当医師・看護師から伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、看取りについてご本人様・ご家族様に書面にて説明。終末期には再度可能であればご本人様・ご家族様の意向を確認。医療・介護が連携し、その人らしく終末期を迎えて頂けるように対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、常時見えるところに提示しています。ユニット会議等で演習を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はもとより非常食・常備水を配置し、町内会長を通じて最新情報の収集や地域との連携を図り、支援協定を12月4日に締結します。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時・失禁時はご本人様の尊厳を傷つけないように、言葉掛けやプライバシーに配慮しています。また、入浴・更衣支援等においても、常にプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事で何を食いたいのかを聞いたり、一緒にスーパーで食材を選んだりします。また、おやつ時の飲み物を選んだりします。更に、何気ない会話の中で言われたご本人様の想いを拾い上げるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・おやつ・入浴等、1日の流れは大まかに決まっていますが、住人さんの意思を尊重し、ペースに合わせた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	シニアファッションショーを開催したこともあり、おしゃれをすることに対しての出席者の方をはじめとして、他の方にも話に花が咲き、楽しいひと時を過ごして頂きました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を包丁で切ったり、炒めたり、味見したり、盛り付けたり、また食器洗い・食器拭きたいという具合に、住人さんと楽しく行えるように心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事・水分摂取量を記録しています。また食事メニューも記録し、栄養バランスを考慮した食事作りに努めています。更に、食事摂取量に不安のある状況であれば、往診にて適宜相談を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	住人さん各々に合った声掛けや支援を行っています。また、歯ブラシ・スポンジブラシを使い分けています。更に、口腔内に不安のある状況であれば、往診にて適宜相談を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がない住人さんに対しても声掛けし、なるべくトイレでの排泄を促しています。また記録を見直し、排泄パターンを把握できるようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取量の把握をし、スムーズな排便リズムに向けての日々の生活での腹部マッサージ等の便秘解消の取り組みをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めています。が、体調不良や失禁の時等、状況に応じて日時はその都度変更しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は基本的に各自で決められ、遅くとも夜10時頃には声掛けし、就寝されます。室温・音・光に配慮しています。また自由に昼寝等をされ、介助を要する方へは声掛け対応します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有しています。特に血圧・排便の薬は、主治医や看護師の指示を受けながら服薬しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑・花の世話・カラオケ・食事の手伝い・TV鑑賞等、好きなことができるように声掛け・見守りを行い、時には一緒に行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「相撲を観戦したい」と言われた住人さんの願いを叶えるため、外出計画を実施しました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望ある方はご家族様とも相談し、預り金を渡し、ご自身で支払っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話希望がある時は、リビングにてかけて頂いています。また手紙の宛名書きや切手の購入支援を行ったり等、必要な際はお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりがよく、温度や光をカーテン・エアコンで調節します。また、戸を開け、換気を行います。クリスマスシーズンには皆でツリーを飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて1人で寛いだり、席を変えて気の合う住人さん同士で談笑したり、また他フロアの方とも交流を持てるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや鏡台等、できれば馴染みの品を持ち込んで頂いております。また、ご家族様との外出時の写真を貼り、日記をつけ、日頃の出来事を忘れないようにご家族様と協力しながら行っております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住人さんによっては、トイレや浴室の場所が分かりにくく、迷われることが稀にあります。そのような際は、職員が声掛け対応しています。		